

2022 年度 GRIP プログラム
学習要項
(2023 年 1～3 月)

Ver. 3 (JPN)

この学習要項の使い方

GRIP プログラムに参加して学習するにあたり、ゴールや道筋を見失わず、かつ、主体的に、他学生や教員、関係者と協同しつつ、有意義な学習となるようにガイドとして活用してください。

目次

1. GRIP プログラムのめざすところ
 - 1) GRIP とは
 - 2) プログラムの概要
 - 3) 育成する人材像
 2. GRIP プログラムの構成と学習活動の概要
 - 1) GRIP プログラムの構成
 - 2) 学習活動の概要
 - 3) 大学院副専攻としての GRIP プログラム
 - 4) 修了と単位認定
 3. GRIP での取得能力と到達目標
 - 1) 文化的対応能力
 - 2) IPCP : Interprofessional Collaborative Practice に関する能力
 - 3) 社会課題解決に関する能力
 4. ISL の各パートでの具体的な学習活動と課題 (2022 年度トライアル版)
 - 1) 使用学習プラットフォームのログイン法等
 - 2) 事前学習の具体的内容
 - 3) フィールド演習
 - 4) 事後学習
 5. 評価方法
 6. GRIP での ISL を安全に行うための心構えと事故発生時の対応
- 資料 1. 現地フィールド演習スケジュール
資料 2. 現地フィールド概要
資料 3. ワークシート
資料 3-1 個人用 リフレクションシート (中間・最終評価)
資料 3-2 チーム用 リフレクションシート (中間・最終評価)
資料 3-3 学習成果統合シート
資料 3-4 コミュニティアセスメント資料

1. GRIP プログラムのめざすところ

1) GRIP とは

GRIP とは、グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成 (Global & Regional Interprofessional Education Plus Program : GRIP Program) の略称です。2022 年度の文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の一つです。

2) プログラムの概要

世界中の多様な「地域特有の健康課題」に取り組み、それぞれの現場での最適解を導き出す人材を育成するため、本学で 2007 年から実施している医薬系学部を横断した「専門職連携教育プログラム－亥鼻 IPE」を全学に発展させ、さらに複数の国の複数の専門領域の学生がお互いに学びあうプログラムとなっています。JV-Campus 等を活用した事前学習ののち現地演習を経て、バーチャルワークショップで共有していきます。

3) 育成する人材像

どの国、どの地域であっても、自国でも他の国でも健康関連の課題に他の専門職とともに取り組み、文化的対応能力及び文化的謙虚さを基盤として、現場での最適解を導き出すことができる自律した組織人の育成をめざします。WHO が提唱する Universal Health Coverage 「全ての人々が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」を推進し、SDGs の開発目標 3「すべての人に健康と福祉を」の実現のために寄与する、地域ケアを創生できる専門職を養成します。

2. GRIP プログラムの構成と学習活動の概要

1) GRIP プログラムの構成

GRIP プログラムは、中核となる学習活動として Interprofessional Service Learning (ISL) を実施します。実渡航し、現地で実際に活動を行うフィールドスタディとその前後の、事前学習、事後学習 (バーチャルワークショップ) の 3 つのパートからなる構成です (下図参照)。

学術領域や学部・大学院を越えて、参加学生がチームとなって、それぞれの専門性や個性、強みを発揮して、健康に関連する社会課題の解決に取り組みます。

図 1 GRIP プログラムの構成と学習概要

2) 学習活動の概要

事前学習：自国内でのオンライン学習

GRIP プログラムの核となる概念や取得をめざす能力である、Interprofessional work (IPCP)、Cultural Competency と Cultural Humility といった文化的対応能力、社会課題解決についてオンライン学習を行います。加えて、健康に関連する課題把握に関連する国際保健や自他国、特に派遣先の保健医療制度等について学習します。オンライン上で自己紹介を行い、チームビルディングを開始します。オンラインの LMS (learning management system) として、

千葉大学の Google Classroom やメタバースプラットフォームを用います。
オンライン学習では、ISL 全般を通してオンデマンドでの動画・資料視聴の他、リアルタイムでのディスカッションやプレゼンテーションもあるので、WEB 会議ができるだけの機材 (PC、WEB カメラ、マイク、イヤホン(ハウリング防止のために使用推奨))を事前に準備してください。

フィールド演習：現地演習

パートナー大学が提供するフィールドに実際に赴きます。渡航期間は約 10 日間、実際のプログラム期間は 8 日程度です。現地での生活を送りながら、フィールドでのサービス活動に参加し、見学やシャドウイング等の実践を行い、実際の社会課題とその対策や支援法について学習します。フィールドは、例えば、子どもに関すること、高齢者に関することなど、特定の具体的なトピックとそれに関連するコミュニティや組織、施設などです。

学生は、本 GRIP の基盤として、文化対応能力を意識しつつ、チームの IPCP として、社会課題解決に取り組みます。

事後学習 (ヴァーチャルワークショップ)：自国内でのオンライン学習

千葉大学に加え、パートナー大学の GRIP 参加学生や関連教員等も加わり、参加学生の学習成果発表会として、協同でワークショップを開催します。各大学の学生はチームで発表準備と発表を行います。メタバースをプラットフォームとして使用します。そして、学生の発表事例は、次年度のケースシナリオとして活用します。

トライアル版としての 2022 年度 (2023 年) の実施内容

2022 年度は、トライアル版として、事前学習は Google Classroom、さらにメタバースプラットフォームを使用しての非同期でのオンライン学習としています。

2023 年度以降は、これらに加えて JV-Campus を使用します。

図 2 2022 年度トライアル版 GRIP プログラムを構成する 3 つのパートと内容

3) 大学院副専攻としての GRIP プログラム

2023 年度は、以下の通り、ISL (2 単位) に加え、所定の 6 科目の計 7 科目 (8 単位) が認定されれば副専攻として修了することができます(参考：千葉大学 大学院国際実践教育 <https://global-education.chiba-u.jp/globalstudies/>)。千葉大学の学生であれば、いずれの大学院研究科ならびに学部学生であっても修了が可能です。2023 年度の後期に開講予定です。

図 3 大学院副専攻としての GRIP プログラムの構成

4) 修了と単位認定

千葉大学学生は、ISL を履修・修了すると、2022 年度は、学部生は看護学部の Global Health and Nursing II として、大学院生は看護学研究科の 2 単位の ENIGINE 該当科目として単位認定します。2023 年度からは、看護学部生ならびに他学部生は同様に Global Health and

Nursing II として、大学院生は ISL (Interprofessional Service Learning) として同様に ENGINE 該当科目として 2 単位の単位を認定・付与します。

パートナー大学の学生は、特別聴講学生 Exchange Student として、千葉大学在学学生と同様に単位認定・付与されます。参加を証明する認定証 certification も発行します。

3. GRIP での取得能力と到達目標

GRIP プログラムでは、取得・向上をめざす核となる 3 つの能力、すなわち、文化対応能力、IPCP、社会課題解決能力について、表の通りに具体的項目を設定しています。

また、ISL における実践では、個々の学生も学習・実践経験などのレディネスに合わせた 3 段階のレベルの到達目標を設定しています。

事前に、各能力等について、自身の状況を把握し、目標を設定し、プログラム中、終了後等に評価し、さらなる向上につなげていくことが望まれます。

1) 文化的対応能力

文化的対応能力では、Cultural Competency と、Cultural Humility に焦点を当てます。異文化状況において、質の高い、効果的なヘルスケアを提供するために、次のような文化的対応能力が求められます。また、これらはケアの対象者と自身の間だけのことではなく、異なる価値基準や信念を有する多職種間や、同じ国に暮らす人々の間でも留意することが必要です。

ヘルスケア提供における CC と CH は次のような Cultural Competency とは、a developmental process in which one achieves increasing levels of awareness, knowledge, and skills along a continuum, improving one's capacity to work and communicate effectively in cross-cultural situations.

Cultural Humility とは、a reflective process of understanding one's biases and privileges, managing power imbalances, and maintaining a stance that is open to others in relation to aspects of their cultural identity that are most important to them. (出典：CLAS, cultural competency, and cultural humility, US Department of Health and Human Services Office of Minority Health

https://www.minorityhealth.hhs.gov/Assets/PDF/TCH%20Resource%20Library_CLAS%20CLC%20CH.pdf)

それぞれを発達・発展させるためには、以下のような意図的な行動が必要です。常に、これらの項目について意識し、文化的対応能力を意図的に向上できるようにしましょう。

表 1 文化的対応能力 Cultural Competency and Cultural Humility strategy for practicing

Cultural Competency
Learning about your own and others' cultural identities
Combating bias and stereotypes

Respecting others' beliefs, values, and communication preferences
Adapting your services to each patient's unique needs
Gaining new cultural experiences
Cultural Humility
Practicing self-reflection, including awareness of your beliefs, values, and implicit biases
Recognizing what you don't know and being open to learning as much as you can
Being open to other people's identities and empathizing with their life experiences
Acknowledging that the patient(client) is their own best authority, not you
Learning and growing from people whose beliefs, values, and worldviews differ from yours

* 活動場所や状況に応じて、表中の「患者」は対象者(クライアント)に、「治療」はケアやサービスに読み替えます。

2) IPCP : Interprofessional Collaborative Practice に関する能力

IPCP については、表 2 のように 6 つの能力を設定しています。ISL では、社会課題の解決に、多職種専門家のチームとして取り組みます。GRIP プログラムでは、参加学生は学年や専門性も異なり、自身の専門性についての知識や経験の幅があるため、確固たる役割の違いや責任の明確化などについては幅が大きいと想定されます。つまり、より現実的な状況での多職種専門家間連携としてのチーム活動となります。この状況を踏まえた上で、IPCP の能力を常に意識して活動に取り組むことで向上を目指しましょう。

表 2 取得ならびに向上をめざす IPCP に関する能力

専門混在のチームワークでの課題解決	Problem solving through mixed-specialty teamwork
各専門の役割と責任の明確化	Clarification of roles and responsibilities for each specialty
コミュニケーションとリーダーシップ	Communication and leadership
チーム学習とその反映	Team learning and reflection
ニーズを伴うユーザーとの関係円滑化	Facilitation of relationships with healthcare users
倫理を伴う実践教育	Practical education with ethics

取得・向上を目指す 6 つの能力のアウトカム(達成指標)は以下のような例で示されます(表 3)。

表3 取得・向上を目指す6つの能力のアウトカム例

1. Teamwork:

being able to be both team leader and team member

knowing the barriers to teamwork

2. Roles and responsibilities:

understanding one's own roles, responsibilities and expertise, and those of other types of health workers

3. Communication:

expressing one's opinions competently to colleagues

listening to team members

4. Learning and critical reflection:

reflecting critically on one's own relationship within a team

transferring interprofessional learning to the work setting

5. Relationship with, and recognizing the needs of, the patient:

working collaboratively in the best interests of the patient

engaging with patients, their families, carers and communities as partners in care management

6. Ethical practice:

understanding the stereotypical views of other health workers held by self and others

acknowledging that each health workers views are equally valid and important

(出典：Framework for Action on Interprofessional Education& Collaborative Practice. P26, 2010, WHO

<https://www.who.int/publications/i/item/framework-for-action-on-interprofessional-education-collaborative-practice>)

3) 社会課題解決に関する能力

ISL において社会課題を解決する能力として、以下の6つを設定しています(表4)。地域のアセスメントから課題の抽出、そして地域や住民の要望や文化的背景等を考慮し、実現可能な解決方法を計画します。さらに、その上の段階として、介入方法が果たして実際に解決につながっているのか、具体的な効果をもたらしているのかという観点から、効果を測定するための指標や測定法を策定します。これらのアセスメントや介入計画そして実施について、ケアの対象である住民など地域の当事者との合意をもって行います。持続可能性を担保するためにも当事者主体であることが重要となります。

さらに、アドバンスかつ俯瞰的な視点から、一時的な介入だけでなく、課題の背景にある

システムとしての社会政策について何か改善できないか、新たに追加することができないなど仕組み作りについても考察できることをめざします。

表4 取得ならびに向上をめざす社会課題解決に関する能力

地域のアセスメント評価	Assessment of community, region
地域課題の抽出	Clarifying the problems and factors
実践型課題の解決目標設定	Goal setting for solving
効果測定の評価計画立案	Planning for evaluation of effectiveness
地域における合意形成	Consensus building in the community
社会政策等の方策立案	Planning of social policies and other measures

ISLの演習実践においては、参加学生の学年や専門家あるいは社会人としての知識や経験が異なるため、それぞれの学年に応じた社会課題解決スキルの到達目標を、表5のように設定しています。特定のトピックや専門領域に関する社会課題については、学年に関係なく設定された到達目標を超えての実践が望まれます。

表5 演習における社会課題解決スキルの到達目標

レベル	到達目標とするスキルの概要	想定する該当学生
1	特定の地域、コミュニティ、集団について、健康に関する観点から特徴、課題、ニーズ等を分析できる。健康の決定要因や関連するSDGsを用いて説明できる。	学部1～3年生
2	支援やサービスの対象となっている課題と関連要因、介入とその効果としての具体的指標、プロセスを論理的かつ科学的根拠となる援用理論やモデルを用いて説明することができる。	学部3～5年生 修士課程
3	既存の支援やサービスについて、クリティカルに評価し、改善の余地やリソースの紹介、新たな介入法などのアイデアの提言などをおこなうことができる。	学部5～6年生 修士～博士課程

4. ISLの各パートでの具体的な学習活動と課題（2022年度トライアル版）

1) 使用学習プラットフォームのログイン法等

学習用LMSとして、Google Classroom および web ベースのメタバースプラットフォームであるoViceを用います。

それぞれのプラットフォームのログイン法やマニュアルは次の表 6 の通りです。確実にログインできるようにしておいてください。また、自身のアカウントやパスワードは、他者に教えないでください。

表 6 学習用プラットフォームと使用法等

プラットフォーム名	ログインのためのアカウント	ログインのための URL
Google Classroom	SIU 学生：各自のアカウントでログイン 千葉大学生：千葉大の Google アカウント	別途周知・連絡(TBA:to be announced) 1 月 30 日以降利用可能
oVice (メタバース)	SIU 学生：各自のアカウントでログイン 千葉大学生：千葉大の Google アカウント	別途周知/連絡 (TBA) 2 月 5 日以降利用可能予定
共通の準備物品	WEB 会議可能な準備、PC、WEB カメラ、マイク、ヘッドホン(イヤホン)、インターネット	

参考資料 URL:

Google Classroom : https://support.google.com/edu/classroom/answer/6020279?hl=en&ref_topic=10298088

他

oVice :

<https://www.youtube.com/watch?v=sRC7M7ItmIw&t=121s> 他

2) 事前学習の具体的内容

事前学習では、オンラインでの ISL における事前の知識取得とチームビルディングが中心となります。次の表 7、8 に示したスケジュールにもとづいて、主にオンラインで、個人あるいはチームでの学習を実施します。表 7 には、提出を要する課題とその内容等を呈示しています。

自己紹介動画/資料は、自大学内および 2 大学間でのチームビルディングのための素材となります。学生間での学習リソースの呈示は、共同学習やチームビルディングの導入、そして呈示する学生自身にとっても自国での状況把握と理解の導入となります。

表 7 事前学習における学習課題とツール等 TBA:決定次第周知

名称	方法	使用プラットフォーム	Assignment	期日	備考

			実施者		
コースオリエンテーション	非同期・オンデマンド (資料視聴)	Google Classroom	動画視聴 /資料精読 個人	2023年2月3日 (金)~	・コース全体の説明 ・事前学習課題の説明 ・評価基準等の説明等
Lecture 1. IPE/IPCP 2. Community-based integrated care system in Japan 3. Global Health 4. Health care system in Japan	オンデマンド (資料視聴)	Google Classroom		2023年2月3日 (金)~	・ISLの学習目標に連動した学習資料の呈示
現地プログラムオリエンテーション CU学生	オンデマンド (資料視聴)			2023年2月3日 (金)以降 TBA	・現地におけるフィールド演習に関するオリエンテーション (千葉大学生に向けたシンビオシス国際大学からの説明)
現地プログラムオリエンテーション SIU学生	オンデマンド (資料視聴)	Google Classroom		2023年2月 TBA	・現地におけるフィールド演習に関するオリエンテーション (シンビオシス国際大学学生に向けた千葉大学からの説明)
他学生自己紹介資料	オンデマンド、 動画/資料視聴	Google Classroom oVice		2023年2月3日 (金)~	・他学生が作成した自己紹介資料の視聴
学生呈示の学習課題リソー	オンデマンド、	Google Classroom		2023年2月6日	・パートナー大学学生が呈示した演習テ

ス	動画/資料視聴	oVice		(月)～	ーマに関する資料の閲覧
メタバースプラットフォーム(oVice)使用方法ガイダンス	オンデマンド(資料)視聴	Google Classroom		2023年2月 TBA	・プラットフォームのログイン等の使用法の説明

*上記の他に、渡航オリエンテーションや現地滞在中の生活に関するオリエンテーションを予定している。同期・非同期にて実施予定である。日時や方法が決定次第、アナウンスする(TBA)。

表8 提出を要する課題

名称	実施者	提出先・場所・形式	提出日	提出回数	含む内容等
自己紹介動画作成・提出 (CU学生は動画、SIU学生は文書)	個人	Google Classroom /mp4	2023年2月1日(水)	2	各学生の自己紹介 約3分/人の動画作成: 以下の内容を含める ・氏名、所属、専門(未経験の場合は将来の希望)、興味のある社会課題やテーマ、参加の動機・個人的目的、将来の希望活動フィールド *以降オプション(行ってみたい場所・やってみたいこと、自国の一押しの観光名所について、その他、他学生に伝えたいことなど)
学習リソースの呈示 (パートナー大学学生に向けて)	個人	Google Classroom /word、txt	2023年2月1日(水)	1	・1~2つ/人の、自国における相手大学学生の学習主題に関する学習リソースの紹介(英語のサイト、動画など。言語は英語) ・千葉大は日本の高齢者関連課題についてキーワードと、それに関する英文サイトあるいは論文を呈示 ・SIUはインドの子どもについて上記同様 *提出されたものを教員がまとめ必要に応じて補足して呈示

3) フィールド演習

演習テーマとフィールド

フィールド演習では、パートナー大学の所在する現地に渡航し、現地のフィールドである地域や組織、施設を訪問し、サービス活動に参加します(表9)。事前学習で得た知識や技術をもとに、IPCP、文化的対応能力を意識して、地域社会のために効果的な奉仕活動に参加・

実践し、チームで社会課題解決に取り組みます。

各大学は、大学の所在する国や地域の社会課題をもとに ISL のテーマを選定・呈示します。2022 年度は、千葉大学の学生はインドにおいて、シンビオシス国際大学が提供する「困難な状況にあるこども達」としてその支援活動に参加する他、地域住民の生活知のためにコミュニティ訪問を行います。

シンビオシス国際大学の学生は日本において、「日本の高齢者の健康と地域包括ケアシステム」をテーマとして、フィールド演習をコミュニティ訪問や施設での活動参加を行います。

具体的なフィールド概要とそこでの学習目標は、別紙資料で示します（フィールド一覧）。また、フィールド訪問を含む現地での学習活動のスケジュールも別紙にて呈示します（現地学習スケジュール）。

表9 フィールド演習の場所や内容（2022 年度）

実施する学生	フィールド演習の場所・パートナー大学	テーマ	訪問/参加する地域、組織、施設等	期間（プログラム期間）
千葉大学学生	シンビオシス国際大学(プネ、インド)	インドの困難な状況にあるこども達	村の学校、生活困窮状態にある子どもを支援する NGO など	2023 年 2 月 14 日(火)~2 月 22 日(水)
シンビオシス国際大学学生	千葉大学(千葉・東京、日本)	日本の高齢者の健康と地域包括ケアシステム	セルフヘルプ、在宅ケア提供施設、災害準備教育体験、生活困窮者支援 NPO、ショッピングモールでのウォーキング促進など	2023 年 3 月 1 日(水)~3 月 9 日(木)

(2) 学習活動における目標設定とリフレクション

表 9 に示したようにワークシートを活用して、特にフィールド演習においては GRIP プログラムの目標の他、各フィールド固有の学習目標に沿って目標設定・計画およびそれに照らしたリフレクションを個人・チームを行います。

毎日の目標が達成できたかどうか、チームならびに個人でも検討・評価します。この各日の記録用紙は書式自由で、提出不要ですので各自で工夫してください。

そして、現地でのフィールド演習期間の中間に当たる 4 日目のプログラム終了時、そして最終日にあたる 8 日終了時には、それぞれ個人ならびにチームでリフレクションを行い、評価をします。4 日目の中間評価では、それまでの学習活動や目標達成状況を振り返り、課題や目標を明確化して、後半の 4 日間に有意義な学習活動を実施できるように活用してください。最終日の 8 日目の振り返りでは、自身やチームの学習活動と取得・向上をめざす IPCP、文化的対応能力、社会課題解決力について向上や成長を認識し、評価します。自己の将来の専門職としての学習や社会活動の資料として活用してください。

各フィールドにおけるアセスメントのための情報収集と記録については、テンプレートと資料を教員が呈示しますが（資料 3-3, 3-4）、学生がチームで検討し、項目を追加するなどして活用してください。チームで役割分担をするなどして、情報を収集・持ち寄り、チームとしてフィールドのアセスメントを行います。各ワークシートの呈示、実施者、提出等は、表 10 の通りです。

表 10 フィールド演習におけるワークシートの呈示・実施・提出等

名称	実施者	提出先・場所・形式	提出期日等	含める内容等
個人・チームの毎日の記録	個人 チーム	提出不要・書式自由	提出不要	各日の目標・計画・実施・評価・翌日の課題等
個人リフレクションシート (中間・最終評価)	個人	Google Classroom /Google document, Word など	中間：フィールド演習の 4 日目あるいは翌日 (CU: Feb.17, SIU: Mar. 4) 最終：フィールド演習最終日 (CU: Feb. 21, SIU: Mar. 9)	IPCP,CC&CH, 社会課題解決能力他、シート参照 (資料 3-1)
リフレクションシート (チーム用) (中間・最終評価)	チーム	Google Classroom /Google document, Word など	中間：フィールド演習の 4 日目あるいは翌日 (CU: Feb.17, SIU: Mar. 4) 最終：フィールド演習最終日 (CU: Feb. 21, SIU: Mar. 9)	IPCP,CC&CH, 社会課題解決能力他、シート参照 (資料 3-2)

			9)	
学習成果統合シート	チー ム	Google Classroom Ppt あるいは google slides *そのままプレ ゼンテーション 資料として使用	学習成果発表会 (Mar. 16)にてプレゼンテーション	資料3-4中のコミュニティアセスメントの項目、課題、解決策など(資料3-3)

4) 事後学習

おもな学習活動は、自国内でのオンラインでのバーチャルワークショップです。同期(リアルタイム)オンライン上での学習成果発表会を行います。発表準備により学習体験の統合・意味づけを行い、実際に英語でプレゼンテーションすることによりコミュニケーションおよびプレゼンテーションスキルの向上を図ります。また、発表後は、パートナー大学の学生や教員とともにディスカッションを行うことで、さらにグローバルな観点から学習を深めます。そして、個人学習の内容をレポートで提出します。

学習成果発表会のプレゼンテーションの準備と方法

以下の表 11 に示した通りの内容や時間配分にて、実施します。成果発表の内容やプレゼンテーションスキルや内容についての評価は、表 12 の基準を用いて評価します。

表 11 成果発表会の日時、内容と時間配分 (2022 年度)

<p>1. 開催日時：2023 年 3 月 16 日(木) 午後 約 3 時間</p> <p>2. 開催方法：オンライン (同期・リアルタイム) (2022 年度はアーカイブ視聴でも出席とする)</p> <p>3. プレゼンテーションに使用するプラットフォーム：メタバースプラットフォーム (oVice)</p> <p>4. プレゼンテーション実施者と内容</p> <p>10 名の学生は、グループとして、以下の内容を含めてプレゼンテーション資料を英語で作成し、発表を行う。</p> <p>1. メンバーおよび学習スケジュールの全体概要、2. 社会課題解決に関するケース 2 つ (あるトピックについて：日本に来る SIU 学生は①ソーシャルキャピタル、②災害の備え) について (2022 年度の場合)、3. IPCP に関する評価</p> <p>5. 発表の詳細と時間配分</p> <p>1 つの大学の成果発表 26 分~30 分/大学 (仮)</p>
--

<p>チームメンバー紹介（所属、専門、学年等）・学習スケジュールの全体概要（各活動フィールド概要、学習テーマ、実際の実施内容等について全体的に紹介） 5分</p> <p>ケース発表（社会課題解決）</p> <p>①ケース1（トピック）7分</p> <p>トピック(例：災害準備支援など)に焦点化して、フィールドと活動について以下の項目を含め、発表する。必須項目：各フィールドの組織・施設、扱っている社会課題、サービスの対象者、実際の支援あるいはサービス活動内容、評価指標、学生が参加・実施した活動、良い点や工夫されている点と国への移転可能性とその理由、オプション：改善の余地や新たな提案などもあれば入れる。</p> <p>②ケース2（トピック） 7分</p> <p>内容は①と同様</p> <p>チームとしての自己評価 7分</p> <p>チームとしての全体的な IPCP、社会課題解決、各評価とその依拠する状況、今後の課題・展望について発表</p> <p>Q&A：15分</p> <p>講評：15分</p> <p style="text-align: center;">ここまでで計 60分（仮）</p> <p>休憩 10分後</p> <p>他の大学の学生の発表 内容や時間配分は同じとする</p> <p style="text-align: center;">ここまでで計 130分（仮）</p> <p>すべての大学の学生発表等がおわったところで、全体講評 20分として、終了とする。</p> <p style="text-align: center;">計 150分（2大学の場合）</p> <p>*なお、この発表は録画し、アーカイブ視聴可能とする。</p> <p>*また、次年度の、モデルケースとして、次年度参加学生も視聴可能とする。</p>

表 12 学習成果発表の評価基準

観点の説明	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	(標準点)			
学習成果として述べるべき内容				
ケース発表（社会課題解決）	含めるべき要素が	1	2	3
表5に照らして、評価する。	含まれていない			

チームとしての評価 (IPCP)」 取得・向上を目指す6つの能力のアウトカムのうち、Teamwork、Relationship with, and recognizing the needs of, the patient、Ethical practice) について評価する。	左記の要素が述べられていない。	リーダーとメンバーの両方の役割がとれる チームワークの障害となるものがある わかる	対象者の関心やニーズに沿って協同する ニーズを有する関係者とパートナーとして協同する	チーム内の少数意見を尊重する
--	-----------------	---	---	----------------

コミュニケーション

話し方 話し手としての、1. 態度、2. 言葉遣い、3. 声の大きさ、4. 速さ	左記の4要素等が適切でなく、全体的に聞きにくい	4要素等、適切でない部分があり、一部聞きにくい	4要素等が適切で、聞きやすい	4要素等が非常によく、聞き手が引き込まれる
質疑応答 質問の意味の理解、明確な回答、誠実な態度、回答の根拠	質問の意図を理解していない	質問の意図を理解しているようだが、質問者の観点からずれた会という、またはその場しのぎの回答をしている	質問の意図に沿って、誠実に回答している	質問の意図に沿って誠実に回答しているだけでなく、根拠が示され説得力のある回答がされている

個人のレポート作成と提出

個人の学習成果についてはレポートで提出する。内容、構成等は、グループでの評価項目と同様の項目を個人について評価し、自己の成長と課題、感想として、指定された期日までに Google Classroom に提出する。英語で 1000 words 程度とする。

表 13 個人学習成果レポートの内容・提出等

名称	実施	提出先・形式	提出期日等	含める内容等
----	----	--------	-------	--------

者				
個人学習成果レポート	個人	Google Classroom/world	2023年3月23日(木)	IPCP・文化的対応能力・社会課題解決能力についての自己の成長と課題、感想 使用言語：英語 単語数：1000 words 程度

5. 評価方法

出席・参加状況、記録・レポート、成果発表会、自己評価表を用いた評価などから、総合的に評価する。

6. GIRP での ISL を安全に行うための心構えと事故発生時の対応

- (1) 自己の健康管理等への留意
- (2) 演習時間の厳守
- (3) 服装・身だしなみへの配慮
- (4) 文化的安全への配慮
- (5) 演習計画作成・実施に伴う留意
- (6) 教員および演習施設の担当者への報告・連絡・相談
- (7) 守秘義務・個人情報管理
- (8) 事故発生時の対応

事故や不測の事態に遭遇した際には、患者さんや住民の方々の生命を第一に優先し、被害や障害を最小限に食い止めることが大事である。以下の表 14 の手順にそって、冷静に対処する。

表 14 事故発生時の対応

①被害状況を把握	事故に気づいた時点（事故を疑った時点を含む）において、患者さんや住民の方に生じた事故（物損も含む）もしくは学生自身が受けた被害の状況を捉える。
②助けを呼ぶ	事故に気づいた時点（事故を疑った時点を含む）で、まずは、患者さんや住民の方の命を第一優先に行動することを基本に、その場で自分が対処できることは行う。周囲の人にも助けを求める。
③教員と施設の実習担当者への報告	速やかに教員と施設の実習担当者に報告（いつ、どこで、誰が、誰に、何を、どうして、どうなったか、など）し、指示に従って行動する。 ※外出時は、必ず実習施設の電話番号を控え、小銭か携帯電話を持っていく。
④事故からの学び	事故が生じた原因について熟考し、事故を起こさないために必要な自分の課題に気づき、次からの実習に活かす。

⑤ 事故報告書の作成	必要に応じて、教員と共に事故報告書を作成する。
⑥ 保険金請求手続き	必要に応じて、学研災の損害保険（障害・賠償責任）あるいは旅行保険の保険金請求手続きを行う。

(9) 災害発生時の対応

・ 学内活動時

大学の災害時対応マニュアルに沿い、教員が避難誘導などを行い、安全を確保する。その後、大学内担当者・部署間ならびにコーディネーターや原籍大学の担当部署と連絡をとり、情報共有および対処の検討を行う。

・ 地域の施設での実習

施設スタッフの指示に従い、避難等を行い安全を確保する。その後、大学内担当者・部署間ならびにコーディネーターや原籍大学の担当部署と連絡をとり、情報共有および対処の検討を行う。

(10) その他の留意事項

学内・フィールド演習等にかかわらず、困ったことや気になることなどあれば、担当教員やコーディネーターに気軽に相談してください。

資料 1. 現地フィールド演習スケジュール

2022 年度 GRIP プログラム 日本を実施場所とする GRIP プログラム ISL のフィールド

1. 日本を実施場所とする ISL のテーマとトピック、フィールド、活動等

1) テーマ : Health of older people and community-based integrated care systems in Japan
日本の高齢者の健康と地域包括ケアシステム

2) 概要: 世界で最たる超高齢社会である日本では同時に少子化および人口減少の状況にあり、増加し続ける高齢者の医療・福祉等のアクセス向上、そしてその結果としての健康寿命の延伸や QOL の向上は、世界においても喫緊の課題である。2022 年度の日本での ISL は、高齢者の健康と QOL 向上のために、多様な社会文化経済的状態ならびに健康レベルにある住民の生活場所や、住民自らが行う自助や互助、そして民間の施設や組織による支援の場においてフィールドスタディを行い、高齢社会における社会課題とその具体的解決策ならびに枠組みとしての地域包括ケアシステムについて学習する。

3) トピックと扱う内容、フィールドなる組織・施設等

トピック	内容	組織・施設	エリア
ソーシャル キャピタル	1. 生活困窮改善・防止、 孤立・孤独防止【自助・互 助・共助】	①山友会他(路上生活者支援)	墨田・浅草エ リア
	2. 日常における健康増進 機会と場の提供と活用 【自助・互助】	②イオンショッピングモール・モール 内ウォーキング (海浜幕張)	葛西・東京湾 エリア
	3. 住民によるつながりの 構築・維持【自助・互助】	③葛西のインド人コミュニティ ④東千葉地区自治会	千葉市中央 葛西・東京湾 エリア
	4. 在宅ケアと集いの場所 提供による包括的な健康 の支援【互助・共助】	⑤Neighborhood Care(訪問看護・居 場所づくり他)	千葉県北エリ ア (柏)
	5. 在宅医療ケア提供に よる地域生活支援【共助】	⑥なごみの陽訪問看護ステーション	千葉市中央エ リア (40 分)
災害への備 え	4. 災害弱者・災害発生時 の備えとしての日頃の活 動【自助・互助・共助】	④東千葉自治会 ⑥なごみの陽訪問看護ステーション ⑦災害シチズンサイエンス(災害準備 教育) ⑧りべるたす(共同生活援助)	千葉市中央エ リア 墨田・浅草エ リア
先端医療・医 療工学開発	5. 高度医療ケア・技術開 発・実践	⑨先端医療 (大学病院、CCSC) ⑩フロンティア医工学センターラボ	千葉市中央

4) 活動スケジュール案 (すべての日程に通訳が付く予定である)

月	火	水	木	金	土	日
2月27日	2月28日	3月1日 (1日目)	3月2日 (2日目)	3月3日 (3日目)	3月4日 (4日目)	3月5日
現地 departure	07:30 arrival@Narita	ORT @亥鼻キャンパス ⑨大学病院 見学 10-12	ブリーフィング	ブリーフィング ⑦墨田・浅草 災害シチズンサイエンス	③葛西：イン ド人コミュニ ティ 地区踏査	自由行動
	15:00 ホテルチェックイン	Campus tour 西千葉 13:30-17:30 ⑩フロンティア 医工学 センター見 学(正面玄関 集合)	①山友会(台 東区)アウト リーチ(Aグ ループ5名 ⑤Neighbor hood Care(柏)(B グループ5 名)	⑦墨田・浅草 災害シチ ズンサイエ ンス	③葛西：イン ド人コミュニ ティ p.m.ヨギさん 面談 *中間評価	自由行動
3月6日 (5日目)	3月7日 (6日目)	3月8日 (7日目)	3月9日 8日目			
AM⑤Aグ ループ5名 Neighborhood Care	⑥なごみの 陽訪問看護 ステーション (2名) ⑧りべるた ず(8名)	④東千葉地 区訪問	チェックア ウト 10時頃 evaluation(亥鼻) *最終評価 久保田様懇 談			
PM⑤全10 名 柏 Neighborhood Care	14-16時 ②イオンモ ールウオー キング(海浜 幕張)	13:30 1①山友会 (台東区)ア ウトリーチ (Bグループ 5名) 残り5名は フリー	ランチ後空 港に移動 18:40 Departure@ Narita			

資料 2. 現地フィールド概要

名称	
所在地	
施設概要	
学生対応者(施設代表)	
電話番号	
演習日時	
交通機関	最寄り駅
交通費	千葉駅からの公共交通機関利用時の料金
連絡 担当教員	
演習時の 同行教員	
演習時の参加 学生人数・氏名	
演習内容	目標 演習活動の内容(予定)
当日の スケジュール	
備考	
同行者	SGS 名 千葉大学ボランティア学生 名 (

個人リフレクションシート

(中間評価用)

自己評価 (ふりかえりのための自己評価であり成績には関係しません)

領域および項目	自己評価	理由/根拠となる出来事 (任意)
1. 自己の専門性の発揮	ブルダウン追加	
2. ISL の目標到達度 ※個人によって目標が異なります		
3. 専門職連携力		
専門混在のチームでの課題解決に対する貢献		
各自の役割と責任の明確化		
コミュニケーションとリーダーシップの発揮		
チームでの学習		
ユーザーとの円滑な関係づくり		
倫理的な実践		
4. 文化的対応力		
Cultural Competency		
Learning about your own and others' cultural identities		
Combating bias and stereotypes		
Respecting others' beliefs, values, and communication preferences		
Adapting your services to each patient's unique needs		
Gaining new cultural experiences		
Cultural Humility		
Practicing self-reflection, including awareness of your beliefs, values, and implicit biases		
Recognizing what you don't know and being open to learning as much as you can		
Being open to other people's identities and empathizing with their life experiences		
Acknowledging that the patient/client is their own best authority, not you		
Learning and growing from people whose beliefs, values, and worldviews differ from yours		

個人リフレクションシート

(最終評価用)

後半用 (最終日までに記入)

年 月 日 ()

1. 前半の個人目標

- フィールドでの学習目標

- 専門職連携/チーム活動に関する目標

- 文化的対応力に関する目標

- (■ その他自分なりの目標があれば書き足してください)

2. 活動の記録

3. 目標に対しどのように行動できたか

- フィールドでの学習目標に対するふりかえり

- 専門職連携/チーム活動に関する目標に対するふりかえり

- 文化的対応力に関する目標に対するふりかえり

- (■ その他自分なりの目標に対するふりかえり)

4. 総合的な自己評価

個人リフレクションシート

(最終評価用)

自己評価（ふりかえりのための自己評価であり成績には関係しません）

領域および項目	自己評価	理由/根拠となる出来事（任意）
1. 自己の専門性の発揮	ブルダウン追加	
2. ISL の目標到達度 ※個人によって目標が異なります		
3. 専門職連携力		
専門混在のチームでの課題解決に対する貢献		
各自の役割と責任の明確化		
コミュニケーションとリーダーシップの発揮		
チームでの学習		
ユーザーとの円滑な関係づくり		
倫理的な実践		
4. 文化的対応力		
Cultural Competency		
Learning about your own and others' cultural identities		
Combating bias and stereotypes		
Respecting others' beliefs, values, and communication preferences		
Adapting your services to each patient's unique needs		
Gaining new cultural experiences		
Cultural Humility		
Practicing self-reflection, including awareness of your beliefs, values, and implicit biases		
Recognizing what you don't know and being open to learning as much as you can		
Being open to other people's identities and empathizing with their life experiences		
Acknowledging that the patient/client is their own best authority, not you		
Learning and growing from people whose beliefs, values, and worldviews differ from yours		

フィールド実習最終日に Google Classroom の提出場所へ提出してください。

資料3-2 チーム用 リフレクションシート(中間・最終評価)

チーム名	
リフレクションシート (チーム用)	
チームの活動をふりかえり、今後の活動に活かしましょう。	
(中間評価用)	
前半用 (4日目終了後に記入)	年 月 日 ()
1. 前半のチームの目標	
■ 社会課題フィールドでの学習目標	
■ 専門職連携/チーム活動に関する目標	
(■ その他自分たちなりの目標があれば書き足してください)	
2. 活動の記録	
3. 目標に対しどのように行動できたか	
■ 社会課題フィールドでの学習目標に対するふりかえり	
■ 専門職連携/チーム活動に関する目標に対するふりかえり	
(■ その他自分たちなりの目標に対するふりかえり ※必要に応じて削除)	

リフレクションシート（チーム用）

自己評価（ふりかえりのための自己評価であり成績には関係しません）（中間評価用）

領域および項目	自己評価	理由/根拠となる出来事
1. メンバーそれぞれの専門性の発揮	ブルダウン追加	
2. チームとしての ISL の目標到達度		
3. 専門職連携力		
専門混在のチームでの課題解決		
各自の役割と責任の明確化		
コミュニケーションとリーダーシップの発揮		
チームでの学習と学習内容の反映		
ユーザーとの円滑な関係づくり		
倫理的な実践		
4. これまでのチーム活動でうまくいったこと		
5. これまでのチーム活動で今後改善したいこと		
6. 後半のチームとしての目標		

リフレクションシート（チーム用）

後半用（最終日までに記入）

年 月 日 （ ）

（最終評価用）

1. 後半のチームの目標

■ 社会課題フィールドでの学習目標

■ 専門職連携/チーム活動に関する目標

（■ その他自分たちなりの目標があれば書き足してください）

2. 活動の記録

3. 目標に対しどのように行動できたか

■ 社会課題フィールドでの学習目標に対するふりかえり

■ 専門職連携/チーム活動に関する目標に対するふりかえり

（■ その他自分たちなりの目標に対するふりかえり ※必要に応じて削除）

リフレクションシート（チーム用）

自己評価（ふりかえりのための自己評価であり成績には関係しません）

（最終評価用）

領域および項目	自己評価	理由/根拠となる出来事
1. メンバーそれぞれの専門性の発揮	ブルダウン追加	
2. チームとしての ISL の目標到達度		
3. 専門職連携力		
専門混在のチームでの課題解決		
各自の役割と責任の明確化		
コミュニケーションとリーダーシップの発揮		
チームでの学習と学習内容の反映		
ユーザーとの円滑な関係づくり		
倫理的な実践		
4. これまでのチーム活動でうまくいったこと		
5. これまでのチーム活動で今後改善したいこと		
6. チームとしての総合的な自己評価		

フィールド実習最終日に Google Classroom の提出場所へ提出してください。

資料 3-3 学習成果統合シート

以下はスライドの抜粋である。全部で以下の 5 種類のテンプレートを準備している。適宜スライド枚数を追加し、資料 3-4 のアセスメント項目の情報を挙げて記載する。学習成果発表会にこれらのスライドを使用してよい。提出先は Google Classroom とする。

<p>Add the date of the presentation</p> <p>Title your presentation</p> <p>Add the name of your team List your team members</p>	<p>1. Basic information</p> <ul style="list-style-type: none">• The date and the field you visited• What you did in there
<p>Merge or remove slides as needed</p> <p>2. Community assessment</p> <ul style="list-style-type: none">• List the assessment items	<p>Merge or remove slides as needed</p> <p>2. Community assessment</p> <ul style="list-style-type: none">• List the assessment items
<p>3. Problem assessment</p> <ul style="list-style-type: none">• Social problem(s) of the field	<p>4. Problem-solving</p> <ul style="list-style-type: none">• Current problem-solving activity• Measures of effectiveness & evaluation indicators
<p>4. Problem-solving</p> <ul style="list-style-type: none">• Remaining problem and possible solution(s)	<p>Add slides and topics as needed based on the team-reflection sheet</p> <p>5. Team reflection</p> <ul style="list-style-type: none">• List topic(s) e.g., what went well and why etc.

資料 3-4 コミュニティアセスメント資料

以下の項目に、次の項目も加えて情報収集およびアセスメントを行う。

- ・現地住民の使用言語、上下水道・ガス・電気・トイレの水洗化整備、日照・温度・湿度等の環境など

Community Assessment Guideline

item	Item content
houses and streets	State of houses, interiors, villages, materials and construction methods of houses, age, general conditions, conditions of surrounding houses, townscapes, smells and sounds, density of houses, what kind of area, what kind of people live
open spaces and vacant lots	Focusing on the size and quality of fields, parks, vacant lots, etc., things there, owners, users, usage conditions, impressions of space
boundary	geographical boundaries, sensory boundaries Boundaries of the area (whether they are natural, economic, physical, etc.), whether there is something that represents the boundary, whether there is an atmosphere or impression that seems to be a boundary
gathering of people and place	Gathering places, times, types of groups and their impressions Places where people gather and characteristics of the group, what they do when they gather, what their purpose is, and what time and closedness they have
traffic conditions and public transport	Vehicle and road conditions, traffic jam, traffic signals, pedestrian crossings, railroad crossings, types of public transportation, convenience, main users, routes, timetables, etc.
social service agency	Types of social service institutions, purposes of institutions, usage status, appearance of buildings, who uses them, and what they do specifically
medical facility	Type and size of medical institution, department name, characteristics, appearance of building, degree of closeness to district, location, opening hours, closed day, etc.
shop/street stall	Shopping places for residents, types and characteristics of shops and shopping districts, characteristics of users, transportation to shops, presence and types of stalls, users and their circumstances
people and animals walking in the streets	People and animals that are in the streets, how are they, their outfits and impressions, what kind of people you see in the area, the time of day, the characteristics and impressions of the people who pass by.
vitality of the district and self-government of residents	The state of regional development and decline and the state of activities of resident self-governing organizations Whether it is lively, presence or absence of signboards, bulletin boards, posters, and leaflets indicating the activities of the community association, state of garbage and garbage storage areas, cleanliness of the area, cleaning status, environmental beautification, etc.
regional characteristics and local color	Whether there is something that expresses race or ethnicity, industries that characterize the area, special products, festivals, sightseeing spots, unique culture of the area, local color, regional characteristics, etc.
faith and religion	Characteristics of temples and shrines, cemeteries, faith and religions of residents Whether there are facilities, buildings, or things unique to the area related to beliefs and religions
measures of people's health	Are there any indications of the health conditions of the population? Occurrence of natural disasters and traffic accidents, infectious diseases, endemic diseases, distance and convenience to medical institutions, environmental risks likely to affect health, etc.
politics	Interest in politics of residents and matters related to members of parliament Political parties, politics, parliamentary offices, posters, billboards, whether there are political influential people in the district, and residents' interest in politics
media and publications	Newspapers, magazines, town magazines, media mainly used by residents, presence or absence of cable television, their characteristics and degree of penetration among residents

(Katsuko Kanagawa, Etsuko Tadaka, eds. Community Nursing Diagnosis, 2nd edition, p.42, University of Tokyo Press, 2011.)

Translated by GRIP promotion office

2022 年度 GRIP 実施・協力者一覧（敬称略）

GRIP 推進委員※「*」は GRIP 推進室員

看護学研究院：酒井郁子、井出成美、石橋みゆき、*野崎章子、飯田貴映子、
カズノブダビッド、仲井あや、*天井響子、臼井いづみ、孫佳茹
医学研究院：伊藤彰一、山内かづ代、鋪野紀好、笠井大
薬学研究院：伊藤素行、関根祐子、石川雅之
医学部附属病院：朝比奈真由美
フロンティア医工学センター：中口俊哉
園芸学研究院：岩崎寛

受入プログラム

千葉大学医学部附属病院 菊田直美、フロンティア医工学センター 中口俊哉
一般社団法人 Neighborhood Care：吉江悟
なごみの陽訪問看護ステーション：岡田智恵
社会福祉法人 リべるたす：伊藤佳世子
江戸川印度文化センター：プラニク・ヨゲンドラ
特定非営利活動法人 山友会：ルボ・ジャン、油井 和徳
イオンモール幕張新都心 エンターテイメント推進部：最上亜紀、北下裕基
東千葉地区 和・輪・環の会：村井克則
千葉市役所保健福祉局：久保田健太郎
（株）エス・ジー・エス：肥田木孝、中路良恵、若尾美津穂
シンビオシス国際大学 SCON：Dr. Sonopant G Joshi

派遣プログラム

シンビオシス国際大学 SCIE：Ms. Bhakti Padhye
SCOPE：Dr. Lelith Daniel、
（株）エス・ジー・エス：Ms. Kshipra Potdar
（株）JTB 千葉支店：山本重高